

中高生は次世代の主役！

日本社会の現状を見ると、「貧困・格差の拡大と固定化」という課題が浮き彫りになっています。例えば、2022年の「国民生活基礎調査」によれば、日本の子どもの貧困率は11.5%、ひとり親世帯の貧困率は44.5%と深刻な数字が示されています。一方で、1億円以上の高額所得者が365万人存在しています。このような状況下で、次世代を担う中高生が果たすべき役割について考えてみましょう。

1. 未来を切り拓く主役としての中高生

中高生は、社会を変える可能性を秘めています。多様化とテクノロジーが進む現代、彼らの新しい視点や柔軟な発想が未来を形作る大きな原動力となるでしょう。学びの場を学校に留めず、地域や社会とのつながりを持つことが、彼らの成長と社会への貢献を促進します。

2. 学校教育の課題と期待

(1) 学校教育の現状

学校では進学や就職に向けた指導が熱心に行われていますが、「暮らしのあり方」に関する教育は不十分です。卒業後に直面する本格的な生活の準備を、もっと充実させる必要があります。

(2) 感受性を活かした学び

中高生は、体験を通じて学ぶ力が大きい世代です。しかし、社会に出た後のギャップに苦しむ若者も多く、2-3割が短期間で離職する現実があります。こうした問題を共有し、「当たり前暮らし」の大切さを考える機会を提供することが重要です。

3. 社会と政治の関係性

(1) 政治への関心を深める

政治への関心が低いと、社会全体に大きな影響を及ぼします。若者の投票率が低いことで、彼らに向けた政策が後回しにされる現状を変える必要があります。特に中高生には、政治が暮らしに直結していることを理解してもらうことが重要です。

(2) 現代の政治問題

長期政権下で見られた数々の不正や不透明な政策運営は、庶民の生活に深刻な影響を与えてきました。これらの問題に対する関心を持つことで、社会により良い変化をもたらすきっかけを作れるでしょう。

4. 社会課題とその影響

(1) 貧困と格差の固定化

SDGs の目標にも掲げられる「貧困の撲滅」は、日本においても重要な課題です。アンダークラスと呼ばれる経済的・社会的に不利な立場にある人々の増加が懸念されています。特に中高生が将来アンダークラスに陥らないよう、適切な教育と支援が求められます。

(2) 高齢化と人口減少

日本は「借金大国」「少子大国」「高齢大国」という三重苦に直面しています。この問題に関心していることが、さらなる社会の衰退を招きかねません。特に 2040 年問題に向けた対策を早急に考える必要があります。

5. 学校と教師が果たす役割

(1) 学校の役割

学校は中高生が将来のリスクを軽減し、自立した人生を送るための基盤を提供する場です。学力やスキルの向上に加え、社会性や自己肯定感の育成、進路サポートなど多角的な支援を通じて、生徒の可能性を最大限に引き出す必要があります。

(2) 教師の役割

教師が中高生にアンダークラスの現実を伝え、それを回避するための指導を行うことは、生徒自身の人生を豊かにするだけでなく、社会全体の活力向上にもつながります。

6. まとめ

中高生は、感受性が豊かで未来を学び取る力を持つ世代です。「当たり前の暮らし」の大切さを共有し、共により良い未来を築くために、社会全体で彼らを支える仕組みを構築することが重要です。

私たちは、彼らが「年老いた日本」が直面する 2040 年問題に立ち向かう力を育むことを心から願っています。

最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。

2024 年 11 月 24 日

<お問い合わせ>

内閣府認証 特定非営利活動法人オハヨウ
理事 笹原 繁蔵

<http://www.ohayou.or.jp>

ご連絡: E-mail: mine.shigezo@gmail.com

iPhone: 090-9241-5872